



よしもと ちあき 議員  
新人 吉本 智明

# 児童生徒の支援について考えを



## 関係機関と連携を取り支援する

この3年間に児童生徒、先生方の働き方改革のため様々な人材を投入してきた効果について、以下を問う。

**問** 退職養護教諭を雇い入れた効果は。

**答** 教育部長▼計画的に分業でき手厚くケアできる。

**問** スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員の実績は。

**答** 問題の50%改善。学校へ来られるようになったのが18件。

**問** 教育相談室の現状、スクールカウンセラー新設の現状、効果は。

**答** 令和3年度相談件数は3506件、年々増加傾向。スクールカウンセラーにより相談しやすい環境が出来た。



iルームの様子

**問** 校内支援センター（iルーム）設置による居場所作りとは。

**答** 南部中学校と北部中学校にiルームを設置し、心の支援員の常駐で安心できる空間を設けた。

**問** 教育長の児童生徒の支援の考えは。

**答** 教育長▼不登校の新たな一人を生まない、誰一人取り残さないため支援を行う。

### 獣害対策の実施及び支援を

#### 獣害被害の軽減に取り組み

イノシシ被害は深刻である。どう対処しているのか問う。

**問** 今後のイノシシ被害軽減の取り組みは。

**答** 現状の柵設置、捕獲を継続し、被害防止に努める。

#### 職員の充足は今後どうするか

#### 職員条例定数の改正を提案する

町の安全・安心実働部隊である消防本部の組織体制の課題について問う。

**問** 消防職員、車両は足りているか。

**答** 消防長▼職員の充足率は53・7%と県平均より極めて低い。車両は基準を満たしている。

**問** 職員の充足は今後どうするか。

**答** 条例定数の引き上げを令和5年第4



女性消防職員の救急活動

**問** 女性消防職員であるからこそそのメリット、効果は。

**答** 救急搬送の際に対応が優しく、安心して病院へ運んで貰えたとの声を頂いている。

**問** ドローンの配備状況は。

**答** 消防で保有するドローンは1機。

**問** 今後どのようにドローンを活用するのか。

**答** 災害現場において、初動段階での災害現場の把握、被害拡大防止に役立てる。



新人 まつもと ただあき 松本 忠明 議員

# 今後必要なリスク管理は

## 指針策定と改定に取り組む



**社会経済環境が大きく変化**する中、幸田町の危機管理への取り組みの考え方、進め方を問う。

**問** 町民目線での危機管理として、防災、国民保護、防犯、交通安全の4つ以外は。

**答** 総務部長▼健康被害、環境危機等が情報提供されている。激変する社会情勢を踏まえ情報提供に努める。

**問** 職員目線での危機管理は。

**答** 職員へ文書を発出し、不祥事防止、交通安全、危機管理等を徹底。また、日常業務で管理職からのOJTや、職員研修でリスク管理の意識向上に取り組んでいる。

**問** 職員のコンプライアンスチェックは。

**答** 職員の分限や懲戒を審査する懲戒審査委員会、健康で快適な職場作りを目指す安全衛生委員会等の組織がある。ハラスメントや情報セキュリティ研修、メンタルヘルスのためのストレスチェック等を実施。

**問** 内部統制は危機管理中心にどのように進めるか。

**答** 町長▼危機管理は内部統制導入有無に関わらず対応すべき。内部統制は国のガイドライン等を参考に、本町の実情に合致したものを構築したい。

**問** 北朝鮮のミサイル発射を踏まえ、組織・体制面での変革は必要ないか。

**答** 平時は部長会等を同じ重要施策の協議及び連絡調整を実施している。有事は指針

に従い、対策本部又はチームを設置して柔軟に対応を進める。

**問** 激変する社会・経済状況の中、今後必要なリスク管理は。

**答** 部課長会議等を中心として、デジタル化、カーボンニュートラルの推進等、将来予測をしっかりと分析しながら、危機管理指針の策定・改定等に向けて、しっかりと積極的に取り組むたい。

### 信号や歩道の安全要望の対応は

### 歩車分離や退避場所確保を検討

交通安全について、地元の鷺田区・新田区に関連する課題を問う。

**問** 令和5年度の歩行者用信号機の設置予定は。

**答** 総務部長▼幸田高校北交差点を予定。

**問** 児童と車両の交錯回避のため、信号機の歩車分離は。

**答** 当該地区は人口増加と共に問題も顕在化が予想されるので、警察署に実情を粘り強く説明し、要望・協議を進める。

**問** 歩道の安全管理面や退避場所に関する要望への対応は。

**答** 建設部長▼安全管理面では、今後も通学状況を見ながら必要な対応を行う。退避場所は、用地確保を進めつつ、側溝に蓋をして歩道を広げる等の代替策を検討する。



通学児童と通勤車両が交錯する鷺田交差点